

# SALMON 情報

第3号

2009年1月

- 豊平川のサケ産卵床における環境条件と浮上までの生残率
- これまでの耳石温度標識魚から得られた知見
- 北海道の抱卵ヤマメについて
- サケ科魚類を守る取り組み—冷水病原菌の保有状況調査—
- 最適な飼育池環境を目指して
- 豊かな海づくり大会と一般公開
- 北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖  
ほか



(図版提供：塩見桃子 さん，札幌市豊平川さけ科学館収蔵)

編集 さけますセンター



独立行政法人  
水産総合研究センター

## 目次

豊平川のサケ産卵床における環境条件と浮上までの生残率	3
これまでの耳石温度標識魚から得られた知見	6
北海道の抱卵ヤマメについて	8
サケ科魚類を守る取り組みー冷水病原菌の保有状況調査ー	11
最適な飼育池環境を目指して	14
豊かな海づくり大会と一般公開	16
スプリング・サイエンスキャンプを開催	18
さけます関係研究開発等推進特別部会	20
2008年北太平洋溯河性魚類委員会の調査計画調整会議と年次会議お	
よび科学調査統計小委員会の概要	22
北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖	24
さけます展示施設のページ 標津サーモン科学館	26



## mini column

表紙の絵は、2008年5月に札幌市豊平川さけ科学館で実施した「サケの絵をかこう！」に応募された、北海道札幌市立手稲東小学校6年の塩見桃子さんが描いたサケの子供たちです。春になると、北日本の各地の川では、サケの子供たちがふ化場から海へと旅立っていきます。これからは誰もそばにいない、自分たちだけの生活の始まりです。

大海原の難関にも負けず、大きく成長し、彼らの両親のように無事に生まれた川に帰ってきてほしい、そんな願いが込められているのではと思います。私たちも、サケの子供たちがたくましく立派に育った姿を早く見たい、そう願っています。

